

狂言蓋附
大芝居而
曰條北側

為龜谷先生書

あけぼのそとにわがさるるねの

前狂言
官原傳授手習鑑
大席より
大切まで

梅とぶさくはく 世あふふ
なとてすめ けあふふん

太序ハ大内山我知の聖徳と氣運王と成と帝陵の志并

序中の
加茂院の親王初彦清和天皇の女今人の半と云

席切ハ
夏永彼ノ等乃而情機動動の託云々府の云云

二の切ハ乃なほ時とき道みちの自みづか他たの像よう亦また小こ類るいハ荒わ木きの三さん邪じゃ

三の口ハ 在末の繋ぎよりいふに、色き けい 花よりなる種や、か 病のと種

二の切ハ 佐々村ハ 七千の米 雙江ハ 粟セシ 浦と 栗 栗後の 五 五

江の口
天祥宗雅勢の所現護老心然紫紫の玉非

口の切ハ
寺てら者や志こころの所ところ勢いきなりを連つて其そのの工わざ祈いのち

大切ハ 千幸松小親向のまはま果其の天威徳自在と拜

切征言 條後模樣 歌舞妓也 襖
織合襷 錦
三卷物 本

上の美 藝 後次希をのうにうち出立のる
中の美 みるちをさ此の乃とるありゆく
下の美 太あん寺つみるて見舞本定ぬる
やーやうへあつけふ幣ーよりたし